

校長室の窓から

自然に触れ、心・知が育つ機会を一緒に！

「夏は夜。月のころはさらなり。

やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたる。

また、ただ一二つなど、

ほのかにうち光りて行くもをかし。

雨など降るもをかし。」

これは、清少納言の『枕草子』に登場する有名な一節です。

夏の夜は趣深い。月が出ている夜はもちろん、闇の夜や、蛍が多く飛び交っている様子がよい。また、それらがただ一二つと、ほのかに光って飛んでいるのもよい。夜に雨が降るのも趣があつてよいという意味です。

ちようど、夕刻の我が家の近くの川にも蛍の光が泳ぎ、涼しい風とともに心地よい風情を感じる季節となっています。子ども達にとっては、夕刻から夜の間（朝まで）、外に出ることは珍しいことと思いますが、夜に食事に行き、人工の光を見ることはまれではなくなっていることでしょう。しかし、蛍の光や星空といった「自然のあかり」を見る機会は減っているのではないのでしょうか。

蛍の光のような「自然のあかり」を見ながら、思い思いに感じたことを語ると「心が育ち」、「言葉の力」も身に付くそうです。これは、昼間に昆虫や植物の観察をしたとき、読書をしたときなどにもいえるそうです。

これからの季節、夜、外に出て「自然のあかり」を見たり、昼間には、昆虫や草花を家族で見たりしていただき、感じたことを家族でいっぱい話す。そんなひとときを過ごしてみられてはいかがでしょうか。

学校長 田丸 栄